

南三陸町自然環境活用センター

秋の特別講座

入場無料  
(申込み不要)

# 貝類を知り、 世界を知る

講師：岡山大学学術研究院環境生命科学学域  
准教授 福田宏博士



<プロフィール>

貝類（軟体動物）の分類と多様性保全が専門です。5歳のころに始めた貝殻集めを今に至るまで続け、研究対象としてきました。現在は軟体動物多様性学会の会誌編集とツイッターアカウントの「中の人」を仰せつかり、そこからのご縁で最近「タモリ倶楽部」と「ダーウィンが来た！」にも出演して、研究の一端を紹介しました。一部ツイートの書籍化計画も進行中です。

2022年10月14日（金） // 18:30～20:00

（18:00開場）

自然環境活用センター 交流室にて

南三陸町自然環境活用センター  
（南三陸ネイチャーセンター）

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉沖田69-2

問い合わせ先：0226-25-9703

※ コロナウィルス感染拡大防止のため、検温およびマスク着用にご協力ください。

※ コロナウィルス感染状況等により予定が変更となる場合があります。

南三陸町自然環境活用センター 秋の特別講座

# 貝類を知り、 世界を知る

岡山大学学術研究院境生命科学域 准教授

ふくだ ひろし  
福田 宏

貝類とは軟体動物に属す動物の総称で、カタツムリ、ナメクジ、ウミウシ、イカ、タコもれっきとした貝類のうちです。貝類が示す際立った特徴のひとつは、他の生物と比較しても絶滅危惧種・稀少種が極端に多いことです。なぜなら貝類は環境の変化に対し、極めて繊細な感受性をもつからです。多くの種は移動能力に乏しくその場からすぐに逃げられないので、ある場所の環境が悪化すると他の生物に先駆けて、最初に貝類の種数が減ってゆきます。このため貝類は環境指標生物として最適ですし、極論すると貝類の名前の組合せだけで森羅万象を表現可能でもあります。ところが残念なことに、現状ではどこにどんな貝類の種がいるのかすら情報が不十分です。未知の種・未踏の地が無数に存在するのですが、その一方でどんどん環境が悪化してゆくので、結局多くの種は存在を把握されるより前に絶滅してゆき、取り返しがつかない状態になりつつあります。したがって目下の急務は、環境変化が貝類相に与える影響の具体的で詳細な把握でしょう。そのためには何より、標本の蓄積による歴史的な資料の形成が重要です。環境保全やSDGSの文脈において、貝類分類学は従来にはなかった新たな使命と存在意義をもつと考えられます。